

NEXT
55
みんなの力で、みんなの幸せを
SAWARABI
さわらび

1 表紙 「豊橋祇園祭花火鑑賞 豊橋祇園祭奉賛会様より招待」～珠藻荘～

2 医学講話 人生の最終段階における医療・ケア(1)
◆福祉村病院 院長 小橋 修

6 特集 さわらび会における防災

2024
vol.617

9



医学講話

福祉村病院 院長

小橋 修



人生の最終段階における医療・ケア(1)

① 終末期医療に関するガイドライン

よりよい終末期を迎えるために(日本医師会)

② 私の四つのお願い 箕岡 真子(著)からの紹介

はじめに

高齢者は様々な原因によって摂食・嚥下障害を来し、そこから栄養障害や誤嚥性肺炎を経て死に至ることが多い。そういった食べられなくなった高齢者に対して、経静脈栄養・経管栄養(胃ろうや経鼻胃管)などの人工的水分・栄養補給法により、多くの患者が恩恵を受けている。しかし、進行的な認知症などを有する人生の最終段階にあると考えられる高齢者に、経静脈栄養や経腸栄養が果たして本人の益に叶っているのかという倫理的な疑問が呈されるようになった。その一方で、それらを差し控えることは餓死させることと同じであり、まして、いったん開始した経静脈栄養や経腸栄養を途中で中止することは法的に

も許されないという意見も存在している。これらの議論を受けて、日本老年医学会は、諸学会と協力して、「高齢者の摂食嚥下障害に対する人工的な水分・栄養補給法の導入をめぐる意思決定プロセスの整備とガイドライン」を作成した。それらを受けて、どのような医療・ケアを受けたいか、受けたくないかを前もって決めておく人生会議(ACP)、あるいは事前指示書の作成が薦められてきた。

なぜ、人生会議や医療・ケアのための事前指示書が必要なのか?

自分で、自分のことを決められるうちに、事前にその時のための医療・ケア(自分の治療方針)について決めておくことが、人生の最終段階の医療・ケアを受ける上でとても大切になってきます。

事前指示書を書くことの意味

あなたが重い病気にかかり、または、助かる見込みがない終末期であると判断された時に、または認知症などによって自分の意思を伝えることができなくなる前に自分の医療・ケアをどうして欲しいかという時のために、事前にあなたの気持ちや意思を書き留めておいて、ご家族をはじめ、あなたの親しい人々や、医療担当者に伝えることができるようにする計画書を作成することを目的としています。

具体的な作業

1. 私が望む医療・ケアについて: 認知症やその他の理由で口から食べる事ができなくなった時、どのような方法で、栄養を摂るかについて

は、いくつかの方法があります。
経腸栄養法 ① あなたはお腹に穴を開けて胃ろうから栄養を補給することを望みますか? ② 鼻から胃にチューブを入れ、そのチューブから胃に栄養を補給することを望みますか?あるいは、
経静脈栄養法 ③ カテーテルを静脈から挿入し、そこから高カロリー静脈栄養を摂ることを望みますか? ④ 末梢静脈からの栄養補給を望みますか? それとも
⑤ 口腔ケアを受け最後まで口から食べ物を食べながら平穏な死を迎えることを望みますか? あなたが望む医療・ケアは以上の五つのどれでしょうか。決めておきましょう。
2. 『あなたが望む医療・ケア』あなたが望まない医療・ケアを明確にする上で、家族や、これまでの人生を振り返って、あなたと親しかった同僚や知人・友人などとできる限り話し合っておくコミュニケーションを深めてください。その時点で、書けることだけを書いてください。あなたの考えや気持ちを、ご家族はじめ親しい人々に伝えることができると、再三の話し合いが人生会議(ACP)です。

3. 人の気持ちは時間と共に変わります。周囲の状況や病状によって変化しますので、あなたの気持ちが変わった場合には、改めて、先に書いたものを書き直してください。または定期的に見直すことも良いと思います。

4. あなたが独居の場合、あなた自身が、自分の医療・ケアに関する判断・決定ができなくなった時、あなたに代わって、決定して欲しい信頼できる人（代理判断者）を指名しておくことで、あなたが自分の意思判断ができなくなった時においても、あなたの身体状態や周囲の状況、あるいは医学の進歩に応じて、その時のあなたにとって最も良い決定（最善の利益判断）をしてくれる人を選んでおくことができます。

高齢者の終末期は ゆつくりと進みます。

その長さのゆえに、精神的ケアや快適環境を提供するケア、孤独を避けるケアなどにより残された人生をより豊かに。安心できるように「生きる」ということに焦点を当てていくことが主眼になります。

「最後の時まで尊厳を持って生きる」

「最後の時までその人らしさを失わずに生きる」ことは、患者さん本人の人生観・価値観によって異なりますので、本人の生き方を尊重するために、「延命治療を受けたくない」という項目のほかに、「私は延命治療を受けたい」という項目も事前指示書には設けてあるのです。

① 治る見込みのある病気の時には、頑張つて治療に臨むことが大切です。それは、患者のご家族・友人・あなたのことを愛し大切に思っている多くの人々、そしていつもあなたの医療・ケア担当の皆さんも望んでいることだからです。

② あなたの病気が治る見込みがないのに実施される「延命治療」に関しては、あなたが「どうして欲しいのか」についての事前指示書（またはACP）の記載によって判断されます。

延命治療とは次の 医療処置を言います。

延命治療は、人工呼吸器、心肺蘇生術、人工的栄養補給（経腸栄養、経静脈栄養）、人工透析、輸血、抗生剤投与、大手術などで、これらの延命治療を差し控える、あるいは中止する場合には、いわゆる、「何もしない」と言うことに罪の意識を感じたり、辛い

感情を持つこともあります。そのような場合に、事前指示書に、「最低限の点滴1日、500 ml程度」、呼吸困難などの苦痛を取り除く目的のための抗生剤治療や疼痛の苦痛を和らげる麻薬等の医療・ケアは、主治医が必要と判断した場合には、実施してください」などの記載を書いておくことで

「延命治療をしない」と言うことは、全ての医療・ケアをやめてしまうことではありません。

自然な看取りには、無益な延命治療を差し控えるが、緩和ケア（苦痛の緩和・呼吸困難を和らげるなど快適ケア）は行われます。

事前指示書やACPは、日本では法的拘束力はありませんが、あなたの考え方を周りの人々に理解してもらう上で、大変大切なことです。万一「あなたの最善の利益」に叶わないと考えられる場合には、あなたが指名した代理判断者を中心になって、医療関係者やご家族などと共に、あなたにとって何が最も良いことなのかについて、あなたの価値観・人生観望みを考慮して話し合いをもつことになります。

心肺蘇生術（CPR）とは どのようなものですか？

患者さんの心臓や呼吸が止まった時に実施する治療手段です。

救命できる可能性が高く、その後、満足すべきQOLが期待される場合には、CPRは大変有用であり、恩恵をもたらす治療と言える。しかし期待される生存率が低く、恩恵より負担の方が大きい場合、特に高齢者の場合には、

CPRは、①身体的負担、肋骨骨折や気胸、低酸素血症による脳損傷などがあり、高齢者では心拍が再開しても、その後の生存率はとても低いことが示されており、身体的機能が低下した高齢の患者さんには、CPRの恩恵が少ないと言える。②人工呼吸器に繋がれる可能性が高くなります。

これらのことを説明した上で、「平穏な死を望みますか、それとも人工的にあらゆる積極的治療を施しますか？」もし患者本人やご家族が熟考の上、CPRを望まないと判断したのであれば、主治医に「蘇生不要DNA R」の指示を書いておく必要があります。

（つづく）

研究通信

news of study

Vol. 166

福祉村病院神経病理研究所 所長

橋詰 良夫

東三河地方における病院間の神経病理による交流

はじめに

東三河地方は愛知県の東部の豊川流域および渥美半島で、遠州灘に面する地域であり、中心地は豊橋市で、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村の8市町村からなる。海や山に囲まれた地形的な特性を背景に、方言や宗教、食文化などをはじめとして文化的にも尾張地方や西三河地方とは差異があるとされ、現在でも愛知県内において独特の風土や文化を保っている。

人口は七十三万一千百三十三人で、徳島、高知、島根、鳥取県よりも多い。この地域では福祉村病院を中心

に神経病理を通じて病院間の交流が続いているので、本稿ではその内容を紹介する。

◆東三河神経病理カンファレンス

図1に8月に行われる東三河神経病理カンファレンスのプログラムを示す。この会は年二回定期的に行われており、今回が第三七回である。約18年前から持続的に行われてきた。主として豊橋市民病院、豊川市民病院、豊川総合青山病院、成田記念病院、渥美病院、そして福祉村病院で病理解剖された症例を神経病理学的に検討した結果を報告し、各病院の主として脳神経内科医が相互にディスカッションを行い、交流している。愛知医大加齢研の吉田眞理教授にコメントーターをお願いし、エーザイ株式会社との共催をいただいている。このような会は西三河地方、三重の北勢地方でも行われているが、全国的にはたいへん珍しいことである。

◆東三河地方における神経病理を通しての交流

最近では各病院の交流を基盤とし

て神経病理を通して交流が盛んとなり、クロイツフェルト・ヤコブ病や家族性アミロイドポリニューロパチー、筋萎縮性側索硬化症などの神経疾患の神経病理学的検索に福祉村病院神経病理研究所が中心的な役割を果たしている。神経病理学的検索はどこの病院でもできるわけではなく、頭蓋内のみでなく、脊髄・末梢神経・筋肉を採取する特殊な技術、各種免疫染色、Gallyas染色などの特殊染色、病理標本を検鏡する知識が必要

である。このようにして正確な神経病理診断がなされた研究資料が今後の研究発展に必須である。

◆おわりに

以上のように、東三河地方では神経病理を通して交流が行われているが、この地域にはまだこのような会に参加されていない病院も多く、今後はさらなる交流の広がりをはかり、脳神経疾患の臨床診断、治療の実を目指してゆきたいと考えている。

第37回 東三河神経病理カンファレンスCPC <プログラム>

招待

先生におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、第37回東三河神経病理カンファレンスを下記要綱にて開催致します。万障お繰り合わせの上御参加下さいませ。宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

日時：令和16年8月27日(火) 18:00～21:00
会場：ハイブリッド開催(福祉村病院1階大会議室)
本会は会場へのご参加とZOOMでのWeb接続が可能なハイブリッド形式で開催します。
愛知県豊橋市野牧町山手15-14 TEL.0532-46-7511

司会 さわらび会 福祉村病院 神経病理研究所 副所長 金田 大太 先生
< 情報提供 > 【18:00～18:10】
製品紹介:「ヒト化抗ヒト可溶性アミロドβ凝集体モノクローナル抗体レカナマブ」について
エーザイ株式会社 山浦 亮輔

< ミニレクチャー > 【18:10～18:30】
さわらび会 福祉村病院 神経病理研究所 所長 橋詰 良夫 先生
「福祉村病院 神経病理検討会での認知症400例のまとめ」

- < CPC 症例発表 > 【18:30～21:00】
- さわらび会 福祉村病院 神経病理研究所 所長 橋詰 良夫 先生
臨床経過:豊橋市民病院 脳神経内科 金澤 つぶら 先生
「視覚異常を初発症状とし、2ヶ月で急速に進行したCJDの一例」
 - さわらび会 福祉村病院 神経病理研究所 副所長 金田 大太 先生
臨床経過:豊橋市民病院 部長 岩井 克成 先生
「30代前半で発症し進行した若年性認知症の50代前半の女性」
 - さわらび会 福祉村病院 神経病理研究所 所長 橋詰 良夫 先生
臨床経過:豊川市民病院 脳神経内科 医長 加納 裕也 先生
「トランスサイレチン型 家族性アミロイドポリニューロパチーの症例」

【病理コメントーター】
愛知医科大学 加齢医学研究所 特命研究教授 吉田 眞理 先生
*参加費として500円徴収させていただきます Webでのご参加方法は裏面をご覧ください
共催:東三河神経病理カンファレンスCPC エーザイ株式会社

図1:東三河神経病理カンファレンス

出前講座「腰痛・ひざ痛予防」への講師派遣 ～障害者支援施設 珠藻荘～



7月13日に高齢者の介護予防及び要介護状態改善のために東三河広域連合が実施する「地域リハビリテーション活動支援」の一環で珠藻荘理学療法士の西村公彦が野依地区おしゃべりカフェ「元気会」出前講座の講師として参加しました。

出前講座に参加する専門職は事前登録したものであり、毎年更新していきます。様々なグループから広域連合へ講義要請があり、内容や地域など考慮し、それぞれの地域の代表施設へ依頼が届き、そこから個人へ依頼が来るという流れになっています。今回は野依地区ということと腰痛・ひざ痛など体の痛み予防を学びたいという要望から、福祉村にある珠藻荘の西村理学療法士に依頼がありました。

当日は1時間の講座の中で、腰痛・ひざ痛についての講義だけでなく、実際に体を動かしながらそれぞれの痛みの予防体操やラジオ体操豊橋弁版などを行って体全体で感じ取っていただけるような内容となりました。

参加された方からは、「とても楽しくできてよかった」「皆さん、活動的な方で運動のし甲斐があった」「やはり対面での講座は楽しいし、遣り甲斐がある」といった感想をいただくことができました。

今後も、こういった依頼がありましたら積極的に協力してゆきます。

(鳥居)

特集

さわらび会における防災

防災とは

防災とは、内閣府の定義によると「国土ならびに国民の生命、身体および財産を災害から保護する」ためにさまざまな策を講じることです。そのため、防災の目的は、人命や建物などの財産を保護することにあります。災害によって引き起こされる被害の未然防止、または被害発生後における被害範囲拡大の防止、そして被災からの早期復旧を図る取り組みが、防災における主な取り組みです。（災害対策基本法第一条より抜粋）

さて、それとは別に「BCP」というものがあります。防災とBCPとの違いはどのようなものでしょうか。

BCPとは

BCPとは事業継続計画（じぎょうけいぞくけいかく）のことであり英語【business continuity planning】の頭文字をとったものです。自然災害や感染症などの緊急事態が発生したときに、その損害を最小限に抑え、重要な業務を継続させること、もし中断しても可能な限り短期間で復旧させるための方法や体制を示す計画のことを指します。

医療施設や介護施設においては自然災害や感染症が発生した場合であっても、医療・介護サービスを安定的・継続的に提供することが最重要であるとの考えから、BCPを作成することは大切なことなのです。（厚労省ホームページより抜粋）

福祉村老人保健施設ジュゲムデイケアにおける取り組みと送迎

送迎の際に最も大切なことは「利用者様を無事に送り届ける」ことです。防災関連のさまざまなデータを駆使することは安全確保に繋がります。具体的には、各利用者様の自宅周辺及び送迎ルートのハザードマップを確認し、あらゆる危険に対し予測を立てること。そして、危険が予測できる場合には「送迎業務を行わない」「危険が迫る前にサービスを切り上げ、送迎業務を完了させる」ことが最も重要です。現代はIT化が進み、インターネットの情報やアプリを活用することで、リアルタイムの防災情報を入手しそれらを上手く活用することが「利用者様を無事に送り届ける」ことに繋がります。

防災アプリ 「Hazardon(ハザードン)」

Android

iPhone/iPad



愛知県統合型
地理情報システム

「マップあいち」



公開型地理
情報システム

「ちずみる豊橋」



**特別養護老人ホーム
さわらび荘**

さわらび荘の立地条件から、水害や土砂災害による被害の心配は少なく、やはり心配されるのは大規模地震による被害・影響です。大規模地震や地震に伴う大規模な震災の発生に備え、さわらび荘では防災訓練をご家族や地域の方々にも協力いただきながら行うとともに、備蓄品の確保などを行っております。

また、大規模震災時はもちろんですが、大型台風などによる影響の一つとして停電の心配があります。電気に大きく頼っている現在の生活を考えた場合、停電によって施設の運営に与える影響は非常に大きいです。そのため、今年度発電機を2台新たに購入、現在保有している3台と併せて5台の発電機を保有し、また年間最低でも2回発電機の取り扱い訓練を行い、停電時速やかに使用できる訓練を行っています。
(渡邊憲)

さわらび荘デイサービスセンター

ハザードマップで災害時の送迎危険箇所の把握を行うとともに、災害時には交通アプリにて土砂災害や道路の陥没・水没地域などをリアルタイムに確認しながら安全なルートでの送迎を行います。災害に伴う渋滞発生も把握できるため、より短時間での自宅への送迎が可能です。

また、非常時の発電機などの燃料とできるよう、送迎車のガソリン補充をこまめに行っております。
(太田英)



地域密着型サービス事業所常盤

【小規模特別養護老人ホーム、グループホーム】常盤は水害や土砂災害などの被害を受けにくい場所に位置します。

かし、雨どいに落ち葉などが溜まると排水が上手くいかず、屋上などに雨水が溜まってしまったため、大雨予報などの前日には各階のベランダ、屋上の掃除を行っています。

また、平日頃から地域の方とのコミュニケーションを大切にし、災害時には声を掛け合い助け合える関係づくりに努めています。定期的に行う防災訓練にも、年に1〜2回は地域の方をお誘いし、非常食の炊き出し訓練や水消火器訓練を一緒に行っています。
(藤原)

【認知症対応型デイサービス】大雨などの災害時には、「避難情報」を常に確認し、利用者様ご家族と連絡を取り合い、ご自宅周辺の様子を確認しながら送迎を行います。
(日和田)



**認知症対応型共同生活介護
事業所グループホーム明珠**

8月1日(木)コープあいちで行われた「防災学習会」に参加してきました。もしもの時、自分や大切な家族が困らないように考えること、自分の地域はどうなっているか、どんなことが起り得るか、ハザードマップをチェックし、すぐ対応できるように備えることが大切だと学びました。

非常用トイレも実地練習をした方が良いと聞き、毎年施設で行っている防災訓練で実践してみようと思います。
(島本)



珠藻荘

珠藻荘では、日頃より災害時やコロナウイルス感染流行時に備えて、入所利用者様の安全を守るための取り組みや体制を整えています。

今年度は4月17日に夜間想定避難訓練を行い、8月21日に地震想定避難訓練と炊き出し訓練、そして発電機の取扱いを行ってまいりました。

災害などの不測の事態に備え、様々な場面を想定した避難訓練を定期的に行い、いつ起こっても直ちに対応できるように取り組んでいます。

また、珠藻荘では地域の方々の要配慮者の受け入れを行っており、災害時の食料等の備蓄の整備にも力を入れています。

現在進めている主な取り組みとしては、珠藻荘防災委員会が中心となり、災害時のBCPを参考に避難誘導マニュアル作成を進めていることがあげられます。そのために、珠藻荘の立地状況・環境を踏まえた土砂災害等に関する注意箇所や対策について建設業者などの専門家の意見をいただきながら全職員に伝達をしていきます。

また、気象情報の避難レベルに応じた避難段階の明確化についても重点的に進めてゆきます。

今年度よりコロナウイルス感染症発生時の研修と訓練も義務化となり、昨年度よりコロナ感染症に重きをおいた研修や訓練を行ってまいりました。感染症BCP（新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画）を基にゾーニングを現場の介護職員を中心に行うことで、感染者がいる場所と感染者がいない場所のゾーニングについての課題が見えてきました。また、感染者を増やさないために正しいガウンの着脱方法の手順の強化も行ってきました。

今後も災害時、コロナウイルス感染症時の研修や訓練を定期的に実施していき、緊急時に協力体制や整備などを強化してまいります。
(岩水)



福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね

福祉村障害福祉サービス事業所 すみれ

災害対策

大規模地震が起こった際には、食料等の救済物資が届くまで、電気やガス等が復旧するまでを耐える必要があります。能登大震災の支援状況を鑑み、食料や飲料水1週間分を災害備蓄として、発電機やその燃料、簡易トイレ、衛星電話をインフラ設備として用意しています。

しろがね、すみれでは2カ月に1度、地震や火災を想定した避難訓練を実施しています。繰り返し訓練を行う事で、回を追うごとに避難完了までの時間が短くなっています。訓練を行う中で、ヘルメットや防災頭巾を置いておく場所、日常的に使う物品の配置等を見直し、速やか且つ安全に避難できるようにその都度改善を行っています。防災食の入れ替え時期には炊き出し訓練も行い、被災した際の動き方の確認やシミュレーションも行っています。避難所での生活では食事が冷たいことが多く、温かい食事が心の支えになることがあります。いざというとき、少しでも安心して過ごしていけるように訓練を続けていきたいと思っております。

利用者様の安全な送迎

暴風警報が発令された際には利用者様の安全を最優先とし、原則施設の営業は中止となります。営業中に暴風警報が発令されそうであれば、影響が大きくなる前に帰宅していただく場合もあります。また大雨で冠水しやすい場所や河川の氾濫、崖崩れ等が予想される場所を事前に調査し、その場所を避けて送迎を行うようにしています。豊橋市防災危機管理課のサイトにわかりやすいハザードマップが掲載されていますので、皆様も安全な避難ルートの確認をしてみてください。いかがでしょうか。
(宮下)



豊橋市 防災危機管理課

**障害者支援施設
あかね荘**

大規模災害が起こった際には、非常食や飲料水を1週間分を、また発電機や衛星電話等を災害備蓄品として用意しています。

そして今年度あかね荘では、6月～7月にかけてBCPPの職員研修を行っております。内容は、「障害福祉サービス等におけるBCPP」の動画視聴とあかね荘あかねホームとそれぞれのBCPPを確認してもらっております。この研修でのレポートでの多くの意見を参考に利用者様、職員の安全確保と継続的な利用ができるように、自然災害発生直後から、状況がどのようなに変化するかを想定し、職員が行う対応を時系列にまとめたシナリオを使う行う訓練や災害伝言ダイヤル、職員の安否確認の緊急連絡の練習、発電機や衛星電話の使用の確認を行っていき、また災害備蓄品の確認を再度し、必要物品を整え、いつ災害が起きても困らない準備をしています。



そして福祉避難所の役割として大規模災害が起きた時には、その時の現況を把握し、各施設間での受入の可能な状況を共有するための連絡所を設置する体制づくりも行っています。

(朝倉)

障害福祉サービス事業所 明日香

明日香では、日中活動中に災害が起きた場合を想定して毎月防災訓練を行っています。毎月想定内容を変えて状況によって避難場所を変えて訓練を行っています。大雨による災害が予想される場合は稼働時間を短縮し早めの帰宅にに対応しています。

今年度は被災した場合の避難訓練も行っていく予定です。これからも大規模な震災で予想されることを取り入れ大規模災害に備えていきたいと思えます。

(岸)

軽費老人ホーム若菜荘

若菜荘では大地震、火災、土砂災害を想定した防災訓練として、入居者様の避難誘導や一連の動作の確認や防災訓練を繰り返し行い、いざという時に備えております。

避難訓練は年3回実施しており、さらに毎年、地元の消防団である野依分団の皆様と合同の防災訓練を行っています。また、消防団の皆様から消火器や屋内消火栓の取り扱いについて指導をいただくなどの取り組みも行っております。

豪雨災害対策として、定期的に屋上や雨どいの清掃を行っており、台風等の大雨の際に施設内への雨漏りや浸水等の被害を最小限に抑えるようにしております。

今後も、入居者様が安心して暮らせるよう職員一同取り組んでまいります。

(鎮浪)



第二さわらび荘及び関連施設

第二さわらび荘は福祉村の中にあり、線状降水帯などによる大雨の影響を受けづらい立地に建っています。昨年の6月に起きた大雨の際も施設内で問題は起こりませんでした。職員の出退勤の際に道路が冠水しているなどの問題は発生しました。さわらび会ではグループで情報共有できるアプリを使用しており、職員同士で冠水情報などを共有して対応しました。

カサプランカでは2024年3月の防災訓練の際、車椅子に人を乗せた

まま階段で上層階へ移動させる訓練を行いました。カサプランカの近くには柳生川が通っており、川が氾濫した際には下の階にまで水が押し寄せせる可能性があります。ハザードマップでは特に問題なしとされていますが、昨今の大雨は想定を超えた雨量になる危険性もあり、備えておくに越したことはありません。カサプランカでは2階と3階で利用者様が生活されており、万が一2階にまで浸水する可能性がでてきた場合は3階への避難が必要になります。訓練では、実際に利用者様を車椅子に乗せて行うのは危険が伴うため、職員が車椅子に乗った状態で行いました。階段を上る際、車椅子を持ち上げて登るのは力と人数が多く必要になってしまつたため、後輪を階段に沿わせて回転させながら一段ずつ登っていく方法をとりました。職員の人数が確保できている場合はより安全に、人数が確保できない状態でも移動させられるよう、職員2人で行う場合と3人で行う場合に分けて訓練を行っています。いざという時に安全に利用者様を避難させられるよう、今後も訓練を行っていきます。

(塩見)



地域包括支援センターの活動

～さわらび地域包括支援センター～

7月2日、高山小学校5年生13名に対し、「認知症サポーター養成講座」を開催しました。講義だけでなく、認知症の方が困っておられる寸劇を見ていただき、その声掛けや対応方法などを考えていただきました。認知症サポーターとして今後の活躍に期待します。(白井)



～福祉村地域包括支援センター～

7月20日(土)に、芦原校区の老人会「長生会」にて出前講座を実施いたしました。

7月27日(土)に、芦原校区の老人会「友の会」にて出前講座を実施いたしました。(村井)

中学生体験学習 事前研修会講師派遣

～特別養護老人ホームさわらび荘～

7月24日に、令和6年度の中学生ボランティア体験学習事前研修会に、さわらび荘の渡邊が講師としてお話をさせていただきました。

当日17名の市内各校の生徒さんが参加され、約1時間ボランティアに参加する意義や目的、またさわらびグループのモットーである「みんなの力で、みんなの幸せを」について、幸せを感じるの周りの役に立つ働きをしたときに感じることに、それはボランティアを通して得られること、などを説明させていただきました。

実りの多いボランティア体験につながればと思います。(渡邊憲)



歯科検診の実施

～障害福祉サービス事業所明日香～

明日香では6月末～7月上旬にかけて福祉村病院の歯科の先生に来ていただき、歯科検診を実施しました。

今回、施設としても初めて行いましたが、35名のご利用者様が希望をされています。今後、治療が必要な方に関しては、継続して診ていただけることで、ご本人、ご家族も大変安心をされています。

明日香は通所施設の為、受診等は基本的にご家族がグループホームで行うこととなっております。しかし、在宅の方々に関してはご家族も高齢化となり、受診が難しいケースも出てきていることと、また、歯科検診や口腔ケアに関してはとても大切なものになってくるので、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

(安田)

福祉村保育園七夕交流会

～軽費老人ホーム若菜荘～

7月5日、福祉村保育園と七夕交流会を行いました。若菜荘からは9名の入居者が参加し、園児の皆さんの歌やダンスを楽しみ、一緒に七夕の笹の飾りつけやミニゲームを行いました。

若菜荘からの参加者は「とても良かった、たくさん元気をもらえた」と終始笑顔で楽しめました。(鎮浪)



行事報告

〜福祉村保育園〜

理事長先生からいただいた大きなスイカで、今年もスイカ割りを行いました。

「よいしょ！」の掛け声とともに棒を振り下ろし、どの子もスイカを割ろうと一生懸命頑張っていました。

自分達で割ったスイカは、とても

甘くて美味しく、口いっぱい頬張っていました。夏の楽しい思い出となりました。

(杉浦彩)



〜軽費老人ホーム若菜荘〜

若菜荘では7月19日に豊橋市美術博物館への外出を行いました。豊橋鉄道創立100周年に合わせて東田本線および渥美線の資料等

が展示されており、参加した6名の方も楽しまれておりました。

(鎮浪)



〜障害福祉サービス事業所明日香〜

7月19日、2回目のバスハイクを実施しました。今回はサンプル工場にて天ぷらとスイーツのサンプル作りと、焼津さかなセンターでの買い物でした。21名の利用者様が参加をし、

皆さんとても楽しまれました。

(岸)



〜特別養護老人ホーム第二さわらび荘〜

第二さわらび荘関連施設では、今年も家族会にご協力いただきながら夏祭りを開催いたしました。

天伯：7月22日、カサブランカ：8月13日、カサデヴェルデ：8月21日、グループホームフジ：8月21日



〜医療法人〜

8月5日、4年ぶりの夏祭りを開催しました。境内の風景や夜店の遊びなど職員が手づくりで再現し、浴衣姿で童心に帰って楽しんでいただけました。

(西潟)



〜福祉村障害福祉サービス事業所しろがね〜

7月1日(月)七夕まつりを実施しました。思い思いの願い事を短冊に書き、笹に飾りました。少しでも高いところに短冊を飾ろうと職員と協力する利用者様や、他の方の願い事を見てニコニコしている利用者様が見たりと、様々な楽しみ方がられました。喫茶の時間には七夕ゼリーを作り、皆様おいしそうに食べていました。

(宮下)

〜障害福祉サービス事業所すみれ〜

7月8日(月)七夕まつりを行いました。当日までにみんなで短冊を書き、おりがみで七夕飾りを作り、笹や施設内の壁を彩りました。おやつ作りではコップに星形の寒天とフルーツを入れてジュースを注ぎ、七夕をモチーフとしたフルーツポンチを作りました。夏の暑さを一時忘れられそうな清涼感のあるおやつに皆様笑顔でした。

(青山)



日々彼是

谷さゆり

頼もしい先輩

時々変な切符の買い方をします。最も利用しているのは4枚綴りの豊橋名古屋カルテット切符で新幹線変更券を購入すれば平日は520円で新幹線乗車が可能です。豊橋から行く場合名古屋市内のみ有効ですが市内を越えての移動の場合は事前に目的地の切符を購入してあげばお安く移動ができます。長野や中津川方面に行く時はこの切符と変更券を使い豊橋名古屋間は新幹線、新守山から目的地までの特急券を豊橋駅で用意し出発します。特急乗車の際は特急券をあらかじめ購入します。特急しなのは名古屋始発なのでちょっと早めに並べば確実に座れます。ある日、新人男性と指導役の先輩女性の車掌さんお二人の車内業務を拝見しました。自由席は必ず所持している切符を確認する検札があるのですが、ベテラン車掌さんなら早い時は多治見駅の手前ですべての検札が終了します。今回は教わりながら、という事でかなり丁寧に業務を進めていました。自由席最後列の座席から眺めていたのですが中央西線単線区

間の行き違いの列車待ちの安全確認の為、検札を一時中断する時の挨拶の仕方や再開する時の口上など車掌室から車内通路に向かう所で先輩が小声の実演付きで指導していました。木曾福島駅通過後で検札も終盤です。ICカード乗車券利用エリア外まで乗車の客がいて車内精算でもカード精算を希望したため新人さんオロオロ、すかさず先輩が「特急券のみ現金で、乗車券は降車駅でお支払いください」とテキパキと処理をしていました。最後の検札で、私が乗車券2枚と特急券を見せると、新人さん再びフリーズ。首をかしげています。先輩が切符を見て「四枚つづりの切符ですね。ありがとうございませす。」と指導しながら新人が押印。なんでも教えてくれそうです。「あの、あまり関係ないのですが」とスマホを見せながら「新幹線全17駅デジタルスタンプラリーのアイドルが着用している制服ってJR東海の制服ですか?」と聞いてしまいました。襟と腕章で見分けるようなのですが「ネクタイが違うかもしれません」とのお返事、なら、とネクタイがしっかり写っている別の画像をお見せすると「間違いなくわが社の制服です」「沢山のご乗車ありがとうございませす」と颯爽と乗務員室へ去ってゆきました。後進の育成・指導の仕方や乗車券を確認する検札という仕事の中で的確な判断と仕事の手順・処理の正確さ、接客対応等本当にほれほれしながら見ていました。職種は違えど学ぶ事も多い乗車でした。

Vol. 197
relay column

さわらび会のわ

福祉村病院
診療放射線技師

時田 涼



私の地元である岩手県の紹介を少ししたいと思います。

岩手県は総人口約百二十万人(愛知県は約七百五十万人)、面積は日本で一番目に広い都道府県です。代表的な観光地は、金色堂で有名な中尊寺や小岩井農場、日本三大鍾乳洞の一つである龍泉洞、浄土ヶ浜などが挙げられます。中尊寺は、世界遺産に登録されているのでご存じの方も多いと思います。小岩井農場は、乳製品や菓子類が有名で愛知でもイチ「牛乳やコーヒー牛乳などで見かけると思います。ちなみに小岩井という名称は、開設者である小野義真、岩崎彌之助、井上勝の三名の頭文字から命名しています。

有名な食べ物ではわんこそばやじゃじゃ麺、盛岡冷麺、南部せんべいなどがあります。わんこそばは男性の平均が約六十杯、女性が約四十杯となっているそうです。盛岡冷麺は他の冷麺よりもかなり固い麺なので、苦手な方もいるかもしれません。

他にも温泉や旅館など面白い所がたくさんあるので機会があれば是非足を運んでみてください。

私はベトナム北部のハノイで生まれまし
た。首都として機能し、政治と文化の中心地
であるハノイ。ハノイは7月になると、き
れいな花がたくさん咲きます。それで町は
とても美しくなります。ハノイは東京より
ずっと小さいですが、たくさん湖がありま
す。街の中心にあるハノイを象徴する湖
「ホアンキエム」は、紅河が氾濫してでき
たとされ、一日中、ハノイの人々が集う憩
いの場でもあります。「ホアンキエム」と
は「還剣」という意味で、15世紀に神から
授かった宝剣で中国軍を破ったレ・ロイ王
が、大亀を通じて神に返したという伝説に
由来します。湖の南に
建つ小さな塔は、王が
宝剣を返した場所とさ
れていますが。周囲は約
2 km。遊歩道が整備さ
れており、ゆっくり歩
いて30〜40分程度で一
周できます。私のふる
さとには多様な料理があ
ります。ブンチャーは
ベトナム北部にある都
市ハノイの名物です。



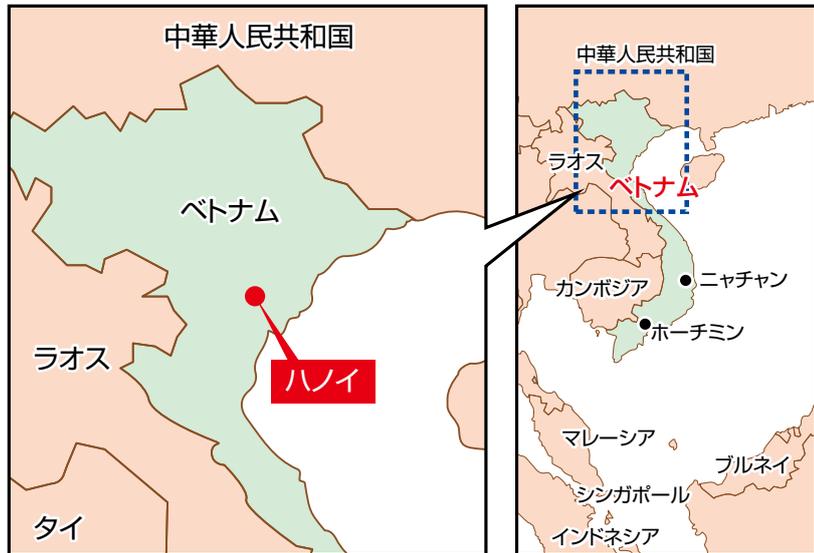
私のふるやき

特別養護老人ホーム第二さわらび荘
タテイファイエン

出身 ● ベトナム ハノイ
学歴 ● HADDONG 短期医科大学
資格 ● 薬剤師・介護士



ベトナム ハノイ周辺の主要都市



ブンチャーはブンという米粉からできた丸
い麺を甘いスープにつけて食べるつけ麺風
です。スープの中にはパイヤ、炭火で焼
いた豚肉とつくねが入っています。揚げ
春巻きも一緒に注文して
合わせて食べても美味し
いので、おすすめですよ！
ベトナムには、この他に
もきれいな所やおいしい
食べ物がたくさんありま
す。もし機会があれば、
ぜひ私のふるさとを訪ね
てみてください。



第124回 さわらびキッチン 栄養士のつぶやき

福祉村病院 栄養士 長阪綾那

残暑厳しく暑い日が続いていますが、秋を感
じられるものが少しずつ増えていくことでし
ょう。

数年前エナジードリンクの多量摂取によるカ
フェイン中毒で亡くなったというニュースを見ま
した。致死量があることを知りとても驚いたの
を覚えています。お茶やコーヒー、コーラにもカ
フェインが含まれていますが、1日頑張りたい時
に飲まれるエナジードリンクにもカフェインが
多く含まれています。

カフェインは眠気覚ましや集中力を高めてく
れる効果がありますが、エナジードリンクを1
日3本以上飲むと過剰摂取になり、めまいや嘔
吐、酷い場合には不整脈などがおき、命の危険も
あります。かっこいいデザインを見て子どもが飲
みたがることもあるかもしれませんが、1本で
も体への影響がある為子どもに飲ませるのは控
えた方がいいでしょう。

大人も子どももエナジードリンクの過剰摂取
によりさまざまな健康被害が報告されており、
農林水産省などで注意喚起されています。個人
差はありますが飲みすぎに注意し、生活をより
良いものにつなごう。



さわらび会後援会寄附ご芳名

令和6年7月6日～令和6年8月5日

10,000 円

10,000 円

10,000 円

10,000 円

10,000 円

12,000 円

1,000 円

たくさんのご寄付ありがとうございました。

計 **63,000円**

現在までにご寄附いただきました金額は

899,603,696円

●福祉用具紹介のコーナー

多点杖『四点可動式ぴったりくん』

軽くて丈夫なカーボン製で脚部の可動範囲を0度から15度まで設定できるので、使用者にとって一番使いやすい状態にできます。

普段一本杖を使っており、初めて4点杖を利用したいと考えている方や杖を持っていると手が疲れてしまう方におすすめです。

(福祉村地域包括支援センター 村井)



販売価格: 22,400円(介護認定済み1割負担の方は2,240円で購入できます。)

※レンタルの場合は1割負担(100円/月)

東海エイト株式会社 ☎(0532)21-5454

レンタル料は事業所によって価格は異なりますので直接お問い合わせ下さい。



福祉サービス株式会社 ☎(0532)66-1011

学生ボランティア受入れ ～認知症対応型デイサービスセンター常盤～

6月27日、豊橋創造大学保健医療部看護学科1年生の生徒さんが、ご自身で希望されボランティアに来てくださいました。この生徒さんは、高校3年生の夏休みに常盤のデイサービスでボランティア体験をし「楽しかった」とのことで、今回のボランティアに繋がりました。

今後も感染対策に十分注意しながらボランティアの受け入れを行い、さわらびグループのことを知っていただく機会になればと思います。(中坪)



村のコーヒー屋さんの夏メニュー! ～医療法人さわらび会～

「村のコーヒー屋さん」の夏季限定メニュー・クリームソーダが登場し、入所者様に大好評です。



＊お礼コーナー ありがとうございました＊

- ※豊橋善意銀行を通して
- ▼三河海苔問屋協同組合様※
海苔・味付海苔(珠藻荘)
- ▼豊橋祇園祭奉賛会様※
祇園花火招待(珠藻荘)

さわらび太鼓の演奏がありました ～障害福祉サービス事業所 明日香～



7月21日 善意銀行創立60周年記念共済「第20回記念チャリティー芸能祭」にさわらび太鼓が参加をしました。日ごろ演芸ボランティア活動している有志が、研鑽してきた芸を市民に披露するとともに、善意活動支援に寄与するために開催されているもので、今回、善意銀行様よりお声がかかり、参加となりました。

さわらび太鼓はトップバッターでの演奏となり、皆さん緊張されていましたが、4曲を無事に演奏することができました。演奏後は募金活動にも参加をされています。太鼓参加依頼も今年に入り増えてきています。よい演奏を皆様にご披露できるよう、日ごろから練習に励んでまいりたいと思います。

(安田)

編集後記

8月8日に発生した日向灘での地震を受けて初めて「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されました。これは南海トラフの地震想定震源域で大規模な地震が発生する可能性が高まったと判断され7日間注意を呼びかけられましたが幸いな事に巨大地震は発生せず8月15日17時で終了しました。(その翌日8月9日に神奈川県西部で震度5弱の地震が発生しました。)巨大地震注意が発表された後、近所のスーパーに行つたところ保存の効く栄養補助食品の陳列棚が空になっていました。水は当面の間一人1箱のみ購入可能と購入制限のお知らせがありました。日頃からの備えとしてローリングストックが必要だと痛感しました。私もスティックタイプの栄養補助食品をいつも鞆の中に入れて携帯しているのですが賞味期限が切れていたり袋の中で粉々になっていたり、日頃からの備えの難易度は結構高いと感じています。地震大雨、台風の備えが欠かせません。

(谷)

- 福祉村病院 ☎(0532)46-7511
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム ☎(0532)46-7501
- 特別養護老人ホーム さわらび荘 ☎(0532)54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- グループホーム 白珠 ☎(0532)66-0082
- 地域密着型サービス事業所 常盤 ☎(0532)62-3370
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘 ケアハウス カサ デ ローザ ☎(0532)37-1209
- 特別養護老人ホーム カサ プランカ ☎(0532)69-1701
- 地域密着型サービス事業所 カサ デヴェルテ ☎(0532)23-5552
- 特別養護老人ホーム 天伯 ☎(0532)48-1113
- グループホーム フジ ☎(0532)54-5477
- 軽費老人ホーム 若菜荘 ☎(0532)48-1138
- 障害者支援施設 珠藻荘 ☎(0532)47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘 ☎(0532)48-2825
- 障害福祉サービス事業所 明日香 ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね ☎(0532)48-1032
- あかね荘 障害者生活支援センター ☎(0532)38-9090
- サービス付き高齢者向け住宅 シャトーローズ八町 ☎(0532)52-0005
- 介護付き有料老人ホーム フェリス福祉村 ☎(0532)47-2202
- 障害福祉サービス事業所 すみれ ☎(0532)38-5077
- 共同生活援助事業所 すみれホーム ☎(0532)29-8180

